

## 観光社会資本の事例

テーマ	道頓堀 なにわの水辺劇場
【施設の状況写真】	
	
<p>道頓堀川(戎橋から太左衛門橋区間)両岸に遊歩道を整備。沿川の建物から遊歩道へ直接出られる出入口の設置が可能としている。</p>	<p>片側 8m 程度の幅で上下 2 段構造としている。</p>
【施設の利用写真】	
	
<p>親水空間を楽しむ人々。都心における貴重な憩いの空間となっている。</p>	<p>水面に映るネオンを活かした夜間景観。遊歩道の一部には船着場も整備。</p>
【観光資源としての利用状況】	
<p>個性的な店が集まるにぎわいと活気のあふれる繁華街「ミナミ」を横断する道頓堀川の水辺に親水性の高い遊歩道を整備し、潤いある新鮮な空間を創出し、新たな魅力を持つ集客拠点として整備を行っています。</p> <p>このうち、戎橋から太左衛門橋間約170mについては、平成16年12月に供用開始しました。さらに、平成17年5月からは、社会実験の一環として、遊歩道上におけるイベント利用の受付を開始しており、伝統や文化に根ざしたイベントや地域活性化イベント、ストリートパフォーマンス等各種イベントの実施を可能とし、さらなる水辺のにぎわい創出を促進しています。</p>	

テーマ	道頓堀 なにわの水辺劇場
<p>【社会資本の基礎データ】</p> <p>○名称 道頓堀川遊歩道(戎橋～太左衛門橋区間)(愛称名:とんぼりリバーウォーク)</p> <p>○所在地 大阪府中央区</p> <p>○事業名 都市水環境整備事業</p> <p>○事業主体 大阪市</p> <p>○事業期間 平成11年度～平成16年度</p>	
<p>【社会資本の役割・効果】</p> <p>○川とまちを一体化し、にぎわいの基盤となる遊歩道整備</p> <p>道頓堀川は、大阪を代表する河川であり、都心南部に残された貴重な水辺空間でもありません。しかし、治水対策のために護岸が嵩上げされたことなどによって、現在の道頓堀川は、まちと隔たった存在となっていました。この道頓堀川の水辺に親水性の高い遊歩道を整備し、潤いある新鮮な空間を創出することによって都市魅力の向上を図っています。</p> <p>○船着場の整備</p> <p>遊歩道上の太左衛門橋付近に船着き場を設けています。市内河川の観光遊覧船の利用が可能となっています。</p> <p>○護岸の安全性の向上</p> <p>遊歩道は、護岸と一体で耐震性を有する構造とし、護岸の安全性が向上しました。</p> <p>○集客魅力あふれるまちなみ誘導</p> <p>沿川の建物から遊歩道へ直接出られる出入り口を設けることもできるので、沿川建物と遊歩道が一体となったにぎわいの空間を形成します。</p> <p>○水辺空間の積極的利活用のための社会実験</p> <p>遊歩道上の河川空間において、規制緩和を行い、これまで認めていなかったイベント等への利用について社会実験として実施が可能となりました。今後、そのにぎわい創出効果を評価・検証し、今後の継続的な水辺空間の利活用を目指します。</p>	
<p>【位置図】</p> 	
<p>【関連ホームページ】 道頓堀川水辺整備関係 <a href="http://www.city.osaka.jp">http://www.city.osaka.jp</a></p> <p>とんぼりリバーウォーク利用・イベント関係 <a href="http://www.tonbori.jp">http://www.tonbori.jp</a></p>	

